

<自己評価1回目> ※黄色のセルをすべて記入してください。

項番 1 / 総事業
項目数 1

整理番号	2025P-	074	補助事業者名	国際交流の推進活動及び国際的な舞台で活躍できる人材の育成に資する事業	事業項目名	国際交流の推進活動及び国際的な舞台で活躍できる人材の育成事業
------	--------	-----	--------	------------------------------------	-------	--------------------------------

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(4／5)

5. 補助事業の自己評価

(a) 個別項目評価

作成日	2025	年	12	月	19	日	作成者	渡辺悠斗
-----	------	---	----	---	----	---	-----	------

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3／5 ①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	1)直接受益者 現地活動校の対象諸学校生徒509名及び教員17名の活動参加が得られた。ボランティア事業参加者:高校生・大学生・大学院生・社会人の計19名 2)間接受受益者 活動対象の学校がある地域や生徒の家族、当会会員及び支援者 活動報告会一般参加者:23名 ※オンライン含む				4
(2) 事業内容	事業計画に基づいて、国内外の活動を実施することができた。				
事業の新規性または継続の必要性	参加者がカンボジアに活動拠点を持つ弊会が実施している教育支援活動の一端に直接関わる事ができた。また、対象校の学校環境、衛生環境が整備され、教えやすく学びやすい環境を提供できた。さらに、「国際相互理解の継続的普及」の観点において、高校生や大学生、社会人がそれぞれの経験に応じてカンボジアの理解を深め、ボランティア体験を通して自らの成長に繋がる活動となった。また、帰国後にその経験をホームページや会報、報告会等で伝えていくことで、社会貢献活動に目を向ける人が増える可能性を確信した。				4
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
実施計画・体制	＜実施計画＞予算⇒計画通り実施できた。実施場所⇒事前勉強会(7月13日と8月10日の計2回):三田いきいきプラザ、カンボジアボランティア活動:プレイベン州ボチバラン小学校他、活動報告会:神明いきいきプラザ(10月11日) ＜実施体制＞事業推進者:渡辺(当会東京事務所勤務、募集/選考/勉強会/派遣手配/報告会を含む全体運営担当)水野、バン・ラス(当会ブノンベン事務所勤務、現地活動校とスケジュール調整/現地見積取得/車両手配/資材手配/作業コーディネート/生活・安全指導/全体コーディネート補佐)				4
(3) 達成目標	事業の実施結果	【達成値】 ①参加者満足度:100% ②教員及び生徒満足度:ブランコ⇒80% 手洗い場⇒95% ③報告会参加人数:約40名	【達成状況】 ①125% ②ブランコ:100% 手洗い場:118% ③133%	【具体的内容】 ①参加者アンケートを実施した。参加者個人ごとの目標設定は応募用紙や面接で確認し、活動期間中参加者全員が提出したレポートの中では随所に変化が見られ、目標達成を確認することができた。 ②現地活動校の教員17名、生徒509名に対するアンケートを実施、ブランコと手洗い場に関する満足度について多くの「満足」という回答が得られ、目標達成を確認することができた。 ③10月11日に実施した活動報告会では、報告者や当会役職員、来場者、オンライン参加者を含む約40名が参加した。	5
	事業の成果・波及	【達成値】 ①参加者の国際理解が深まった ②ブランコと手洗い場の使用状況確認済 ③アンケートで次回参加希望確認済	【達成状況】 ①100% ②100% ③100%	【具体的内容】 ①活動前に応募用紙や面接を通して志望動機、活動を通して学びたいこと、得たいことが確認できた。活動中のレポートを通して、達成度の確認や新たな発見等の振り返りの機会を設けた。参加後のアンケートを通して、意識の変化、得たもの、達成できたこと、挑戦したいことなどを振り返ることができた。計2回の事前勉強会や現地ブノンベンでの当会事務所スタッフの講義を通して、現地の事情や支援の必要性を理解できた。 ②現地活動校には現地駐在員による視察とアンケート依頼を実施した。遊具ができた後の生徒達の変化及び衛生教育ワークショップを通しての生徒達の変化を確認した。 ③帰国後アンケートで複数の参加者から次回以降も参加したいという主旨の記述が見られた。	4
(4) 情報発信	事業の実施結果	【達成値】 ①成果発表のための報告会を開催した。 ②弊会のHPやSNS等を活用しアクセス数やいいねを獲得した	【達成状況】 ①100% ②100%	【具体的内容】 ①活動記録集は作成していないが、直接受益者である事業参加者に対しては、報告会に向けての準備を通して、活動の結果を自ら振り返る機会を設けた。 ②弊会HPやSNSを通して、活動に参加していない人々への周知活動をして、支援者、関係者、事業参加者の大学、他NPOへ理解を深めてもらった。本事業に関する当会SNS投稿に対してフォロワーの皆様よりアクションやシェアをしていただき、積極的に情報発信することができた。	4
	競輪・オートレース補助金による事業であること	【達成値】 ①成果発表のための報告会を開催した。 ②弊会のHPやSNS等を活用しアクセス数やいいねを獲得した	【達成状況】 ①100% ②100%	【具体的内容】 ①競輪補助事業について参加者募集時や事前勉強会で情報発信した。その他、当会支援者に向けてホームページやメルマガ等に情報を発信した。また、支援対象となる学校へのブランコと手洗い場にはJKAのロゴマーク付き支援者プレートを取り付けた。 ②海外活動終了後には、弊会HP、報告会などを通して、会員・支援者のみならず、広く世間一般に情報発信を行った。	4
(5) 自己評価の体制	現地活動校へのアンケート依頼と結果とりまとめ(水野)、事前計画/自己評価書(原案やアンケート結果に基づく振り返りミーティング(渡辺・水野・和田)を実施した。自己評価結果として、当会ホームページに自己評価を掲載した。				3

(b) 総合評価

総合
評価点 4

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。		総合 評価点	4
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	参加者はカンボジア現地で直接活動したからこそ、都心と地域の格差などをはじめ多くのことを学べた。活動期間中、隊員は毎日小グループでの感想共有やレポート提出を通して日々の振り返りを実施した。ブランコ設置に汗を流しただけではなく、子どもたちとの触れ合いを通して、座学では決して学べない場の提供が本補助事業の価値と考える。隊員はここで学んだことを広く伝えていくと語っており、波及効果も大きい。活動を通して現地小学生にも遊び場が増えたり、手洗いの大切さを学んだり、双方向で受益者を増やすことができた。海外活動におけるリスクが常にあることを想定し、安全管理を徹底することにより、本目的の達成に向けたプログラムを継続、継承することは当会の社会的役割であるとする。		
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	優れている点 ●慣れないボランティア作業、初めての海外経験者など不安を抱える参加者も、JHPが安全を確保しながら指導していくことで成長できる。 ●汗をかく活動のブランコ設置、現地NPOで活動者から直接学ぶ、子ども達と直接交流するなどは本補助事業の強みと考える。 課題/改善点 ●現地ではボランティア活動、子ども達との交流など体を使った活動を柱としたが、NPO法人での共同活動などを取り入れて学びの機会も増やしていきたい。		
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	●航空機運賃、交通費、滞在費、滞在中の食事、活動資材含めて、他団体に比べて格段に参加しやすい費用であり、この費用感は、特に海外でボランティアを希望する一方で経済事情により諦めざるを得ない学生にとって大変魅力的である。実際に参加した複数の学生からは、この参加費用でこのクオリティには驚いた、と言う喜びの声を聞いた。また、全行程をJHP職員が同行・指導・宿泊を行うので安心して参加できる。 ●事前勉強会と活動報告会を実施することで、感じたことや学んだことを再度認識して理解が深まるとともに、一定期間活動を共にすることで隊員同士の絆が深まる。 ●補助事業を活動前や活動中、活動後にホームページやJHPのSNSで発信するため、補助事業を広く知ってもらうことができる。 ●1993年から始まったカンボジアボランティア派遣活動は長い歴史をもち、各回参加者同士のネットワークは今でも健在で、人脈の拡大に貢献している。		

【事業費】

整理番号	2025P-	074	補助事業者名	国際交流の推進活動及び国際的な舞台で活躍できる人材の育成に資する事業	事業項目名	国際交流の推進活動及び国際的な舞台で活躍できる人材の育成事業
------	--------	-----	--------	------------------------------------	-------	--------------------------------

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(5／5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因	＊		(1) 経費	(1)補助金により事業実施の予算を確保することができた。 (2)東京事務所とブノンペン事務所の連携をうまくとれたことで、円滑な事業運営ができた。 (3)過去に実績があるため、過不足なく調達できた。 (4)参加者の選考過程に時間を要したため、人員確保に時間がかかった。 (5) ・促進)マニュアルが整備されていることや過去に本補助事業を受けていることから、進捗/資金管理は滞りなく進めることができた。 ・阻害)事務局側が少人数体制のため、業務過多が見受けられた。	(1)参加費用は海外ボランティアを経験したい学生や若者にとって大変重要な要素なので、今後も継続して予算を確保していきたい。 (2)今後とも両事務所の連携を深めていきたい。 (3)今まで蓄積されたノウハウが活かされた。 (4)(5)今年度のノウハウを整理、改善して、さらにブラッシュアップさせ効率良く派遣準備を行えるようにする。また、事業担当者間で業務内容を整理し、事務局担当者の業務を軽減させる。
	＊		(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
	＊		(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
		＊	(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
	＊	＊	(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因	＊		(8) 受益者の規模・ニーズ	(8)学校では手洗いの習慣が身についてなかったため、手洗場の設置は子どもたちの健康を守る上で重要であり、校長、教師、親のニーズを満たすことができた、 (9)カンボジアで活動する団体からのレクチャーは、現場で苦労されていることややりがい直接聞くことができた。また、ワークショップ形式の参加型研修も体験できた。このことは現地でしか体験できないことであり、多くのことを学ぶことができた。	(8)参加者が増えても、今回の経験を活かし円滑で安全な運用ができる体制を築く。 遊び場(ブランコ)、手洗場、衛生教育は子どもたちの健康や学校生活にとって重要なため、継続して提供していきたい。 (9)ホームページ等では学べない貴重な機会のため、今後とも現地NGOなど他団体の協力を得ながら、参加者により多くの学びの場を提供したい。
	＊		(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
		(15) その他			
			(16) 特になし		

【事業費】